

母親の子どもへの愛着は 歯磨き習慣と関連する？

Tsuchiya et al. Prospective association between maternal bonding disorders and child toothbrushing frequency: A cross-sectional study of the Japan Environment and Children's Study. *Int J Paediatr Dent*. 2021. doi:[10.1111/ipd.12791](https://doi.org/10.1111/ipd.12791)

【はじめに】

毎日の歯磨き習慣は子どもの虫歯の発生を予防する効果がありますが、幼児期の歯磨き習慣は親がどのくらい子育てに積極的に依存しています。また、親の子どもへの愛着と子育ての積極性には関連があるとされています。そこで、親の子どもに対する愛着と子どもの歯磨き習慣に関連があるかを調べました。

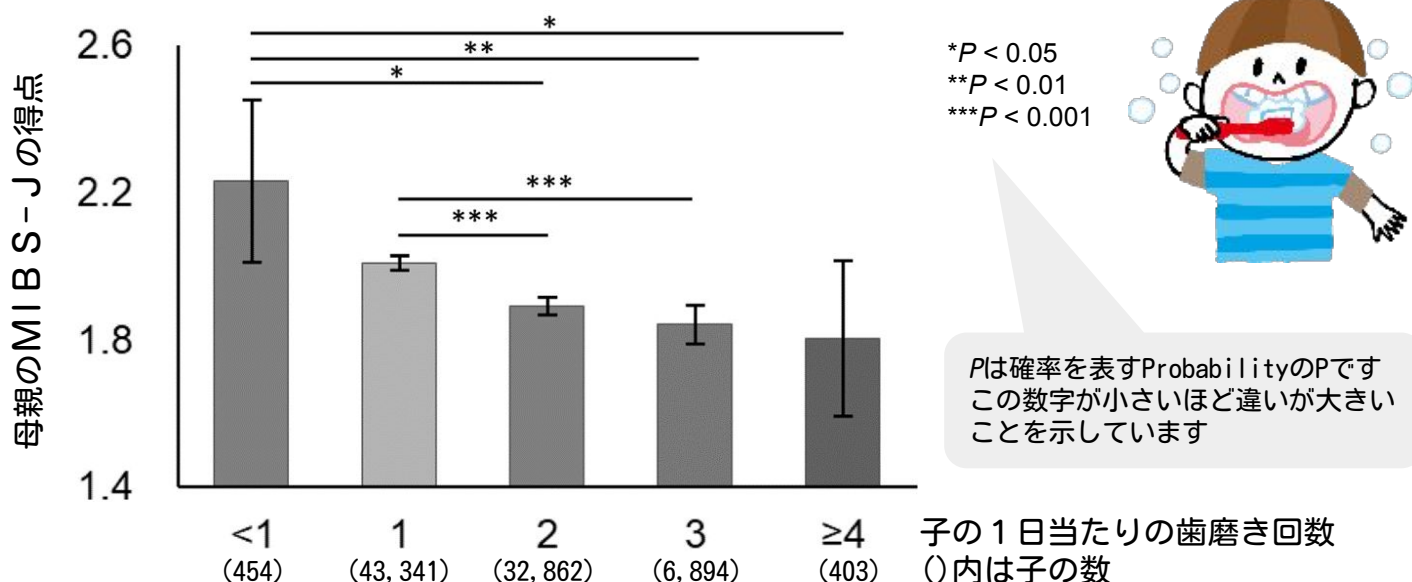
【調査項目】

母親の子どもへの愛着評価には赤ちゃんへの気持ち質問票（MIBS-J）※を使用し、愛着の度合を数値的に評価しました。解析には母親の年齢、出産経験、喫煙・飲酒習慣、パートナーの協力、世帯年収、子どもの性別、母親の産後うつの影響を考慮しました。

※赤ちゃんへの気持ち質問票（MIBS-J）：子どもへ抱く気持ちについて調査する質問票です。得点が高いほど、子どもへの否定的な感情が強いことを示します。

【結果】

参加者：83,954ペアの母と子（2歳児）



子どもの1日当たりの歯磨き回数が少ないほど、母親のMIBS-Jの得点が高いことが確認されました。つまり母親の子どもへの愛着が形成されているほど、子どもの歯磨き回数が増える傾向が認められました。

【この調査でわかったこと】

母親の子どもに対する愛着は、2歳時点での子どもの歯磨き習慣に関連していることが分かりました。母親の子どもへの愛着を調べて愛着形成を支援することで、子どもの歯磨き習慣を定着させて虫歯を予防できる可能性があります。